永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021年 1月

「天国で」「最後の働きの推進力(II)」「御霊によって真価を認める」「里芋だんごのあんかけ」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

「最後の働きの推進力(II)」 今月の聖書勉強 聖書の教え 天国で In Heavenly Places 39 現代の真理 「御霊によって真価を認める」 わたしたちが信仰の一致に到達するまで 力を得るための食事 「里芋だんごのあんかけ」 44 レシピ お話コーナ 「証人 (II) イエスの物語

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1 電話: 0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21 電話: 0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

発行日 2020年12月6日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Image on Front page; Sermon View on page 48

罪をゆるすキリストの力をだれが否定できよう

助けを求めてキリストのところにきた人々の多くは、自分で病気を招いた人たちであったが、それでもイエスは、いやすことを拒まれなかった。イエスから力が出てこれらの人々に入ると、彼らは罪を自覚し、多くの者がその病気と共に心の病もいやされたのである。

カペナウムにいたひとりの中風の人はこういう人間のひとりだった。あのらい病人のように、この中風患者も、回復する望みを全く失っていた。その病気は罪深い生活の結果だったので、その苦しみは悔悟の念によって、いっそう、つらく感じられた。…

中風の人は、絶望の淵に沈んだ。しかしそのとき彼はイエスのみわざについて聞いたのである。自分と同じように罪深いあわれな人々がいやされていたので、自分も救い主のところにつれて行ってさえもらえば、きっとなおるのではないかと考え、しかし、自分の病気の原因を考えると、またも望みは失われるのだが、いやされる機会をなげ捨てるわけにはいかなかった。

彼の大きな欲求は罪の重荷から救われることであった。そのため、イエスにお 目にかかってゆるしの確証を得、天からの平安を得たいとせつに望んだ。…

中風患者を運んできた人々は、幾度となく群衆の中をかき分けて行こうとしたがむだであった。病人は言うに言われぬ悲痛な顔をして周囲を見まわしていた。長く待ちわびた助けがこれほど近づいているのに、どうしてその望みを捨てることができよう。そこで彼の提案によって、友人は屋根の上に彼を運び、屋根をこわしてイエスの足もとにつりおろした。

イエスのお話はさえぎられた。救い主は悲しそうな顔をながめ、その人の嘆願するような目が、じっとご自分を見つめているのをごらんになった。イエスはこの苦しむ魂の切望をよく知っておられたのである。彼がまだ家にいたときに、その良心に罪を悟らせたのはキリストであった。そうして彼が罪を悔いて、自分をいやしてくださるイエスの力を信じたとき、救い主の情は彼の心を祝福してくださったのである。イエスは、信仰の最初のかすかな光が成長してキリストが罪びとの唯一の助け主であるという信念に変って行くのを見守り、イエスのみ前にこようとする努力と共にさらにその信念が強くなって行くのを見ておられた。キリストご自身が、この苦しむ人をご自分に引き寄せられたのである。そのとき救い主は「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」とおっしゃった…。

罪の重荷は病めるこの人の心からおろされた。彼は疑うことができない。キリストのみ言葉は、人の心をお読みになる彼の力を表わしている。罪をゆるすキリストの力をだれが否定できよう。(ミストリー・オプ・ヒーリンク゚48-50)

聖書の教え-現代の真理-

第20課 最後の働きの推進力(II)

第三天使のメッセージ

「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない」(黙示録 14:9-11)。

神は人類に、中空を飛んでいる聖天使たちによって象徴されるほど重要な警告を送られるとき、このお方は論理的に考える力を与えられたすべての人に、そのメッセージに注意を払うよう要求しておられます。

獣とその像を拝む人々に対して宣告されている恐ろしい裁きによって、すべての人は何が獣の刻印であるか、またどのようにその刻印を受けることを避けるかを学ぶために預言を勤勉に研究するよう導かれるべきです。獣の刻印はサタンの欺瞞の最高傑作であり、キリストの再臨の直前に、これを地上にいるすべての人に強要しようと努めています。

しかし、わたしたちは、その獣とその刻印が何であるか、またどのようにその刻印を受ける人々に与えられる恐ろしい裁きを逃れるかについて欺かれたり、不確かであったりする必要はありません。大いなる声で叫ぶ天使によって象徴されている天からのメッセージは、今、地上の住人に対して宣布されています。このメッセージは、第一と第二天使のメッセージと結合して民が、獣の刻印を受けるのではなく、生ける神の印を受けるために準備させるのです。

獣の刻印が何であるかを知るためには、わたしたちはまず、神の印が何であるかを知らなければなりません。刻印、印、スタンプ、あるいは署名は、類義語です。これらの言葉は、聖書においてしばしば互いに置き換わっています。これらの印を理解することは非常に重要です。なぜなら、天使が獣の刻印について警告を発しているからです。一方で、神のしるし、または神の印が黙示録の第7

章で述べられており、そこで神の民はその額に印を受けています。「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、『わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。』」(黙示録7:2,3)。

第14課で学んだように、生ける神の印とは、神の力または権威のしるしです。この印、あるいはしるしは、神の律法の第四条に見いだされます。安息日は印であり、しるしであり、刻印です。もし第四条が律法から取り除かれてしまうのであれば、神の権威が知られることは決してありません。どのような印であっても、それが本物であることを示すためには、3つの要素が必要です。つまり氏名、権限、および立法者の権威です。十戒の中で第4条だけがこれを有しています。預言者イザヤは次のように書いています。「わたしは、あかしを一つにまとめ、教をわが弟子たちのうちに封じておこう」(イザヤ8:16)。

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、 主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」 (エゼキエル 20:20)。

神を知るということは、神の律法を知るということです。神の律法を知るということは、神の安息日を知るということです。

1週間のうちの第7番目の日、安息日は、唯一、神が祝福し、聖別された日です。 安息日は、創造主がどなたであるかを特定します。何世紀もの間、主の日、す なわち第七日目は踏みにじられてきましたが、終わりの時に、この日は高められて、正しい場所へ置かれなくてはなりません。この回復の働きは、永遠の福音の一部です。預言者イザヤは次のみ言葉の中で、破られた律法の構築をあらかじめ述べています。「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日ととなえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば」(イザヤ58:12,13)。

真の神の民は、この最後の時代において、まさに、永遠の福音におけるその 部分を宣べ伝えており、神の律法が破られた箇所を修復しており、獣の刻印につ いて警告を発しています。神の民は、次のような表現によって特定されています。「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」(黙示録 14:12 英語訳)。

創造の時に神に祝福されたように第七日目の安息日が生ける神の印であるならば、獣の刻印は、偽物であるはずです。それは、獣の権威に捧げる礼拝の日であるはずです。それは神の律法に反する日曜日礼拝の設立に他なりません。この点が、最後の論争点となります。その結果、「獣の刻印」と「神の印」がわたしたちの永遠の幸福にとって最も重要な決定となります。安息日は神とその律法に対する忠誠の印となり、他方で日曜日は偽物の礼拝日として大いなる不法の者であるサタンへの忠誠の印となります。

これら三天使のメッセージは、最後の時代のための警告をたずさえて、その 働きをなし遂げます。神の警告、勧告、導きを研究する必要があります。そうす ることによって欺かれないためです。

額に獣の刻印を受けない人々は、神の恐ろしい裁きを免れ、獣の刻印に打ち勝つ人々は、天において見いだされるようになります。「またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た」(黙示録 15:2)。

皆さん、キリストが再臨なさるときに救われたいと願うでしょうか。キリストが神の印」を押されたご自身の者を集め、獣の刻印をもつ人々を拒絶なさるとき、あなたはどのように評価されるでしょうか?

天国で In Heavenly Places



1月

わたしたちの高められた特権

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし…キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

神がキリストを死からよみがえらせられたので、キリストは福音によって生命と不死を明るみに出すことができ、このようにしてご自分の民をその罪から救うことがおできになる。こうしてキリストは堕落した人類を霊的な命へとよみがえらせ、自分の生命をもって生き返らせ、彼らの心を希望と喜びで満たされたのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 3 月 31 日)

キリストは、ご自分を信じるすべての者が永遠の生命をもつことができるようにと、人類の贖いのためにご自身を与えられた。この偉大な犠牲を感謝する人々は、救い主から、すべての賜物の中で最も尊い賜物である清い心を受ける。彼らは金、銀、宝石よりも価値のある経験をする。彼らは、キリストとの交わりの中でこのお方だけが与えることのできる喜びと平安を楽しみつつ、このお方にあって共に天の座に座る。彼らは、自分たちがこのお方の血で買われた嗣業であることを自覚しつつ、心をつくし、思いをつくし、精神をつくし、力をつくしてこのお方を愛する。彼らの霊的視力は世的な方策や世的な目的でくもっておらず、キリストがみ父と一つであられるように、彼らもキリストと一つである。(同上1907年5月30日)

キリストは「わたしたちのためにご自身をささげられた」が「それはわたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するため」であった(テトス 2:14)。キリストは完全な犠牲を捧げられたので、このお方の恵みを受け入れ、その模範に従う人々について、生命の書に、「しみもなくきずもなく一このお方にあって完全」であると書かれている。(同上)

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神・・・キリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福」して下さったお方(エペソ1:3)。このあわれみ深い豊かな備えに含まれていないもの、求めるようにとわたしたちに残されているものがあるであろうか。キリストの功績を通して、わたしたちは天国でキリストの内にある全ての霊的祝福によって祝福される。神に近く引き寄せられ、そのご臨在の雰囲気の中で呼吸をするのは、わたしたちの特権である。…平安と自由そして勇気と力をもたらすのはキリストのご臨在の中に宿る場合だけである。(同上1908年10月15日)

神をよく知る

「あなたは神をよく知って平安を得るがよい。そうすれば幸福があなたに来るでしょう。どうか、彼の口から教を受け、その言葉をあなたの心におさめるように。」(ヨブ 22:21, 22 英語訳)

人々に神を忘れさせることが、初めからサタンの考え抜いた計画であった。そうすれば彼らを自分のものにしておくことができるからである。それゆえ彼は、神の品性を誤り伝え、神についての間違った概念を人々が持ち続けるよう導こうと努力をしてきた。彼らの心に、創造主は悪の君の属性、すなわち専制的な、厳しい許さない性質であるかのように紹介されたが、それはこのお方が人々に恐れられ、遠ざけられ、果ては憎まれるためであった。……

キリストは、世に対して神を愛の神、あわれみと優しさ、同情深い神としてあらわすために来られた。サタンが神のみ座をすっぽりと包みかくしていた深い暗闇は世の贖い主によって吹きはらわれ、み父は再び生命の光として人々に示された。……

あまりにも世のわずらいと仕事上の困惑に没頭した人々の目には、キリストがくすんでしまい、彼らには神をよく知る時間がない。彼らにとって天国は見知らぬ場所である。なぜなら彼らは予測を誤って途方にくれてしまったからである。天の事柄に精通していないので、彼らは天の事柄について聞くのにうんざりし、自分に救いの必要があるということについて、自分の思いがかき乱されるのを好まない。しかし主は、彼らの思いをかき乱すことを望まれる。しかしそれは、彼らが救いについての神ご自身の申し出を受け入れるのに間にあい、ご自分をよく知ることができるためである。……

神に対してあくまでも背信行為を続ける人々に対して、このお方の憤りの恐るべき弾劾が布告されるその日が来る。……しかしあなたはこのお方の憤りを受ける人々の中にいる必要はない。わたしたちはこのお方の救いの日に生きている。カルバリーの十字架からの光は、罪のためのわたしたちの犠牲であるイエスを示しつつ、はっきりとした輝く光線として輝き出ている。「わたしたちは……その(御子の)血によるあがない、すなわち罪過のゆるしを受けたのである」(エペソ1:7)。

神はあなたの内にご自分のかたちを再生したいと望んでおられる。神はあなたの助け主であることを信じ、このお方をよく知ろうと決心しなさい。あなたが告白と悔い改めによってこのお方に近づく時、このお方は憐れみと許しであなたを近く引き寄せられる。(レピュー・アンド・ヘラルド 1912 年 2 月 15 日)

みわざを通して神について学ぶ

「主はすべてのものに恵みがあり、そのあわれみはすべてのみわざの上にあります。主よ、あなたのすべてのみわざはあなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめまつるでしょう。」(詩篇 145:9, 10)

わたしたちは神のご品性と愛をその創造のみわざのうちに熟考するのを愛する。神はご自分の親としての愛と同様に、ご自分の力について、どれほどの証拠を人の子らにお与えになっていることか。このお方は天を飾り、地を壮大にまた美しくされた。「主、われらの主よ、あなたの名は地にあまねく、いかに尊いことでしょう。……わたしは、あなたの指のわざなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか。主よ、あなたのすべてのみわざはあなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめまつるでしょう」(詩篇8:1,3,4;145:10)。

わたしたちの世界がまったいらに造られていたなら、その単調さは目を疲れさせ感覚をうんざりさせたことであろう。神はわたしたちの世界を宏大な山々、丘や谷、また山並みで飾られた。ごつごつとした花崗岩、はげ山、また常緑樹や新緑でおおわれた山々や穏やかな美しさに装われた谷が世界を麗しさの反射鏡にしている。神の優しさと知恵と力が至る所に明らかにされている。山に、岩に、丘に、谷に、わたしは神の力のみわざを見る。わたしは、自然の壮大な光景を眺める間中、孤独な気持ちになることは決してない。平野や山々を旅する時に、険しい絶壁や雪をかぶった高い山々を眺める間中、わたしは最も深い敬神と畏敬の念をもっていた。

山々や丘、また谷は、わたしたちにとって、神のご品性をその創造のみわざのうちに研究するための学校になるべきである。絶えず変化している光景、すなわち山々や丘、谷、木々、灌木、草花、あらゆる木の葉や草の芽のうちにわたしたちが見ることのできる神のみわざは、神のわざと愛についての教訓、またその無限の力についての教訓をわたしたちに教えるべきである。

自然を研究する人々は寂しい気持ちになるはずがない。彼らは瞑想の静かな時間を愛する。神の創造のみわざの内にその力をたどりつつ、神との密接な交わりに入るからである。(手紙 43, 1875 年)

測り知れない愛

「主はいにしえからわたしにあらわれて言われる。わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえわたしは慈愛をもってあなたを引きよせてきた。」(エレミヤ31:3 英語訳)

神を知らない人々は、自分たちの学びや科学によって神を見出すことはできない。キリストは偉大な神秘を証明しようとするのではなく、測り知れない愛をあらわされる。このお方は神の力と偉大さをご自分の説教の主題にはされない。ほとんどの場合、神をわたしたちのみ父として語られる。……罪によって弱くなったわたしたちの思いが、神が愛であるという思想をつかむようにと励まされることを、キリストは望んでおられる。……

放蕩息子の父親はキリストが神の代表者として選ばれる型である。この父親は自分を離れて行った息子にもう一度会って、受け入れたいと切望する。彼は息子に会いたいと心から願いながら、息子が帰ってくることを望みつつ、彼を期待して待ちかまえている。みすぼらしい、ぼろをまとった見知らぬ人が近づいてくるのを見ると、彼はもしや自分の息子ではないかと、迎えるために出て行く。そして、その人があたかも本当の息子であるかのように、食させ、服を着せる。やがて父親はその報酬を受ける。自分の息子が「父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません」と懇願する告白をして帰ってくるからである。そして父親は僕に「さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか」と言う(ルカ 15:21 - 23)。

放蕩息子に対して、彼の悪い行動について責めたり吐き捨てるような言葉はない。息子は、過去のことが許され、忘れられて、永遠にぬぐいさられたと感じる。そして神は罪人に対してそのように言われるのである。「わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した」(イザヤ 44:22)。「わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思い出さない」(エレミヤ 31:34 英語訳)。…

天はおりから遠くさまよい出ている放蕩息子の帰りを切望しながら待っている。さまよい出てしまった人々の多くは神の子らの愛に満ちた奉仕によって連れ戻すことができる。…

ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために進んで御子を手放し、ご自身を悲しみにさらされた御父のことを考えなさい。……ああわたしたちがこの方の愛をもっと良く理解できると良いのだが。(原稿 76, 1903 年)

神の愛という賜物

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛してくださった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

わたしたちは神をどのようにして理解することができであろうか。御父をどのように知るべきであろうか。わたしたちはこのお方を御父という慕わしい名で呼ぶべきである。ではこのお方とその愛の力をどのようにして知るべきであろうか。それは聖書を勤勉に探り調べることによってである。わたしたちは、贖いの大いなる計画を自分の魂の中にとり込まないかぎり、神を正しく理解し感謝することはできない。わたしたちは、これらの壮大な魂の問題、堕落した人類の贖いの問題についてすべてのことを知りたいと思っている。人が神の律法を犯し、あたかも神と離婚をしたかのようにこのお方から分離してしまった後に、すなわち、これらのことがみなあった後に、人がそれによって滅びないで永遠の生命を持つようにという計画がなされたことは、素晴らしいことである。…神はご自分のひとり子をわたしたちのために死に渡された。…堕落した人類に対する神の比類ない愛を絶えず思いめぐらすとき、わたしたちは神を知りはじめ、このお方と親しくなってくる。…

全世界に対する小さな原子のようなこの場所で、人類が知る中で最も高遠な光景が見られた。全宇宙が非常な関心をもって見つめていたが、なぜであろうか。闇の力と光の君との間で大いなる戦いが行なわれなければならなかった。サタンの働きは彼の力を絶えず拡大しなければならなかった。……彼はいつも神を誤った光の中に置き、このお方を憐み深い神ではなく、不公平な神として示していた。人類が神に対して間違った見解を持つようにと、彼らの心を絶えずかき乱していた。

どのようにすれば世に対して神が正しくあらわされるであろうか。このお方が愛の神であり、恵みと慈しみと憐みに満ちたお方であることを、どのようにして知らせるべきであろうか。世はこのことをどのようにして知るべきであったのであろうか。神は御子を世に送り、御子が神のご品性を世にあらわさなければならなかった。…

わたしたちは、この完全な型を自分の目前に据えておき続けたいと願っている。神は、ご自身の代表者として御子イエス・キリストを送るほどに心の優しいお方であるので、わたしたちは思いと心を開いて、上へ到達したいと願っている。 …… 「あなたご自身をわたしたちにあらわして下さい。 そうすれば、 あなたの測り知れない恵みのうちに、 わたしは、 天から地へと降りてこられたキリストを金の輪でつかむことができ、 それをつかんで上へ引き上げていただけるからです」という祈りをあなたのものとしなさい。 (危機 246-248)

憐みから生じた愛

「わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない。」 (ヘブル 8:12)

堕落した人類に対する神の愛は、愛の特別なあらわれ、すなわちあわれみから生じた愛である。なぜなら人類はみなそれに価しないからである。あわれみというのは、それが示される対象は不完全なものであることを暗示する。あわれみが実行にうつされたのは、罪の故であった。

罪は神の愛の対象ではなく、神が憎まれるものであるが、神は罪人を愛し、あわれまれる。罪を犯したアダムの息子、娘は神の贖いの子らであり、御子という賜物によって、神は彼らに無限の愛とあわれみをあらわされた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1901 年 5 月 21 日)

神は、ご自分の弱く罪を犯した被造物に協力を申し出、彼らを有利な立場に置いてこられた。片方には無限の知恵と寛大、同情、力があり、もう一方には弱さ、罪深さ、まったくの無力、貧困、依存がある。……人は自分自身の魂を救うにあたって、神と共に働く特権を与えられている。彼はキリストを自分の個人的救い主として受け入れ、このお方を信じなければならない。受け入れ信じることが契約にあたっての彼の分である。……

贖いの計画は御父と御子の間の会議で取り決められた。その時キリストは、もし人が忠実でないことを示すなら、その者のためにご自身を与えると誓われた。すべての信じる魂を神に結びつけるための贖いをすると誓われたのである。自分の罪を身代り、保証人の上に置く者は…「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し」、「それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった」という使徒と一致することができる(エペソ1:3; 2:7)。

キリストはご自分の無限の愛で救いの計画を考案された。キリストはこの計画を、ご自分と協力するすべての者のために実行しようと待ちかねておられる。このお方は彼らのために、御父に次のように言われる。「彼らの罪を彼らに着せないでわたしにかぶせて下さい。彼らの不義をあわれんで、彼らの罪ととがをもう思い出さないで下さい。彼らはわたしの功績を受け入れ、わたしと和解しました。……わたしの義は彼らのものです。ですからわたしのために、彼らをすべての霊的な祝福で祝福して下さい」と。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1901年2月27日)

ただ一人の贖い主

「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」(ローマ 5:8)

罪が存在するや否や、そこには救い主がおられた。キリストはご自分が苦しまなければならないことを知っておられたが、それでも人間の身代わりとなられた。アダムが罪を犯すや否や、神の御子は人類のためにご自身を保証人として提供された。(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 1巻 1084)

キリストが天の宮廷を去り、ご自身の立場を人類のかしらとするにはどれほどの価を支払うかを考えてみなさい。キリストはなぜこれをされたのであろうか。なぜなら、堕落した人類を贖うことのできるのはこのお方だけだったからである。世界中に罪のない人間がいなかったからである。神の御子は天のみ座から降り、王衣と王冠を脱ぎ捨て、ご自分の神性を人性で覆われた。このお方はわたしたちのために死に、人類がしなければならないように墓の中に横たわり、わたしたちを擁護するためによみがえるために来られた。このお方は人間が悩まされる誘惑すべてをよく知るために来られた。墓から起き上がり、ヨセフの借りた埋葬所の上で「わたしはよみがえりであり、命である」と宣言された。神と等しいお方がわたしたちのために死を経て行かれた。このお方はすべての人間のために死を味わわれたが、それはご自分を通してすべての人が永遠の生命にあずかる者となるためであった。

キリストは、清められた聖なる人性を帯びて天へのぼられた。このお方は、この人性を天の宮廷にご自分と共に持ち込み、神の都にいるすべての人類を贖われたお方として、「わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ」とみ父の前に嘆願しているお方として、永遠にわたって人性をその身に帯びる。そのたなごころには、このお方が受けた傷の跡がある。わたしたちが傷つき砕かれるとき、対処するのがむずかしいほどの困難に出会うとき、キリストがわたしたちのためにどれほど苦しまれたかを思い出そう。……

わたしたちの救い主は、わたしたちが負うようにと命じられるすべての重荷を 負われたが、それは人類がだれも「主はわたしが苦しんでいることも、わたしの 試練もご存知ない」と言うことができないようにするためである。このお方はわた したちの悩みをすべて悩まれた。……

人類は罪を犯さないでは生きることができないとサタンは主張した。キリストは、アダムがつまずき堕落したその問題点に合格し、罪のない生活によって人類を有利な立場に置かれたが、それらすべての者がみ父の前に立つことができ、み父に愛されている御子にあって受け入れられるためであった。(レピュー・アンド・ヘラルド1905年3月9日)

最も高められた主題

「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。」(ヨハネ第一 4:9)

あわれみ深い、神性と人性を兼ね備えた贖い主が、人を罪の奴隷状態から 救い出して下さったその贖いの計画は、人や天使の理解力を越えたものである。 これは本当に並はずれており、非常に宏大で荘厳な神秘であって、わたしたちが このことを完全に理解しようと期待するのは無理である。

堕落した人類のためのキリストの犠牲は比べ得るものがなく、わたしたちが瞑想することのできる最も崇高で厳粛な主題である。神の恵みによって啓発されたすべての者の心は、贖い主の無限の犠牲のゆえに、このお方のみ前に、表現しがたい喜びと愛慕の念をもってひざまずく以外にない。

ナザレのイエスは、その生涯の間、他のすべての人と異なっていた。……このお方は善と完全の唯一真実な型であられた。このお方の伝道のはじめから、人々は神のご品性をもっとはっきりと理解しはじめた。……地上におけるキリストの伝道は、神は独裁者ではなく天父であって、ご自分の子らに対して愛とあわれみに満ちておられることを人々に明らかにするためであった。キリストは、「わたしの父」という慕わしい称号で、神について語られた。……

人の苦痛や苦悩があるところには、憐み深い目であり愛にあふれた心であるお方がおられる。「父がその子供をあわれむように、主はおのれを畏れる者をあわれまれる」(詩篇 103:13)。わたしたちに、神の最高の優しい心遣いがなされており、神はわたしたちが弱いとき、悲しんでいるときにあわれまれる。わたしたちは失望したり、絶望さえするかもしれないが、苦悩の厚い雲がわたしたちを覆っても、その上には光がある。深い悲しみの向うに、憐み深く思いやりのある友、人の子らを意識的に悲しませたり、悩ませたりはなさらないお方がおられる。(原稿 132, 1902 年)

わたしたちの天父がわたしたちに与えて下さった恵み深い祝福の中で、わたしたちは、わがままな子供に対する母親の心からの思いやりにまさる御父の限りない優しい憐みである愛の数えきれない証拠をはっきりと見ることができる。十字架の光の中で神性を研究する時、わたしたちは公正、正義と混じり合ったあわれみ、優しさ、そして許しを見る。わたしたちは、「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」というヨハネの言葉を感嘆の声で叫ぶ(ヨハネ第一3:1)。(教会への証4巻461,462)

キリストによる義

「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。」(コリント第二 5:21)

正義の神はご自分の御子を惜しまれなかった。……神の律法への違反によるすべての負債はわたしたちの仲保者であるお方へ請求され、完全な贖いが要求された。「彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。」仲保者の魂ばとがの供え物」とされた。「彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ」というイザヤの言葉はなんとふさわしいことであろうか(イザヤ 53:10, 5)。

イエスはわたしたちの違反のために律法の極限の罰に苦しまれ、正義は完全に満たされた。律法は無効にならず、その力の一点一画も失われないで、聖なる威厳をもって元のままであり、十字架上でのキリストの死は、その不変を証している。律法の要求は満たされ、その権威は維持されている。神はそのひとり子を惜しまず人に対するご自分の愛の深さを示すために御子をわたしたちすべての者のために引き渡された。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ1:29)。十字架上で死につつあるお方を見つめなさい。神と等しいお方が暴徒に嘲られ、引き回されているのを見なさい。ゲッセマネで全世界の罪の重荷のもとにひざまずいておられるお方を見つめなさい。

このお方は神の御子であったから罰が免除されたであろうか。わたしたちのために罪となられたお方には憤りの報復が抑えられたであろうか。罰は、わたしたちの神性と人性を兼ね備えた身代りであるお方の上に減ぜられることなく降り注いだ。

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」というこのお方の叫びを聞きなさい(マルコ15:34)。このお方は、わたしたちが義人として扱われ、神は公正であって、なおかつ罪人の弁明者であることができるために、罪人として取り扱われた。……

御父と御子との間に存在する愛は表現することができず、測ることもできない。神はキリストの内に、ご自身の内に宿る卓越した麗しさと完全を見られた。諸天よ、驚嘆せよ、地よ、驚け。神はご自身の御子を惜しまず、わたしたちのために御子を罪とするために与えられたからである。そしてそれは信じる者が、御子にあって神の義とされるためであった。……

言葉は神の愛を表現しようと企てるにはあまりにも弱々しい。わたしたちは神の愛を信じ、その愛の内にあって喜んでいるが、その愛を理解することはできない。(原稿 31, 1911 年)

さばくためではなく救うため

「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」(ヨハネ 3:17)

不信に震えおののいている魂がある。「神がわたしと和解して下さったことがどうやってわたしにわかるでしょうか。わたしは、どのようにして、神がわたしを愛し、わたしを許して下さっていることを確信できるでしょうか」と彼らは尋ねる。愛する青年たちよ、あなたがた自身を神との正しい状態にするのはあなたがたの仕事ではない。イエスはあなたがたに、自分の重荷や困惑をすべてもったままご自分のところへ来るようにと招いておられる。……神がなされた約束と摂理を受け入れ……自己から目をそらしてイエスを見つめなさい。なぜなら御父のご品性はキリストの内にあらわされているからである。(ユース・イン・ストラクケー1892 年9月29日)

永遠に有効なキリストの血がわたしたちの唯一の希望である。なぜならこのお方の功績によってのみ、わたしたちは許しと平安を手にすることができるからである。(同上 9 月 22 日)

キリストによってあらわされたように、神のご品性はわたしたちの信仰と愛を求める。わたしたちには、憐みと思いやりが欠けることのない御父がおられるからである。天へ向けてのわたしたちの旅の一歩一歩に、御父は、あらゆる困惑の中で道案内をするため、またあらゆる誘惑の中でわたしたちに助けを与えるために、わたしたちと共におられる。(同上9月29日)

あなたの判断力と想像力は、キリストの生命を与える力に触れなければならないが、それは麗しさと真理の形がその上に印象づけられるためである。あなたの熟慮を要する偉大で尊い真理がある。それは神についての正しい知識を持つことによって、あなたの信仰にとって健全な土台をあなたが持つことができるためである。ああ、表面的でむなしい、真理の探究者は、世の知恵によって学ぼうとするのであるが、その知恵がどれほどであっても、神のことは知らない。

自然からできるかぎりすべてのことを学ぶ努力をするのは適切であるが、自然から生ける神のご品性の完全なあらわれであるキリストを見るのに失敗してはならない。キリストをじっと見つめることにより、神に似ることに一致することによって、神性についてのあなたの概念は広がり、あなたの思いと心は高められ、精錬され、気高くされる。青年たちが、人間の知恵に頼るのではなく、目には見えないお方を見ているようにして、日毎に生き、自分たちの働きを天の住民たちが見ているかのように行うよう、上を目指して進ませなさい。……

単純な信頼と信心深い確信をもって神に絶えず寄り頼む者は、天のみ使いたちに取り囲まれる。信仰によりキリストにあって生きる者は、力づけられ、支えられて、信仰の良き戦いを戦い、永遠の生命を手に入れることができる。(同上9月22日)

無限の力

「『このエドムから来る者、深紅の衣を着て、ボズラから来る者はだれか。その装いは、はなやかに、大いなる力をもって進み来る者はだれか』。『義をもって語り、救を施す力あるわたしがそれだ』。」(イザヤ 63:1)

神のひとり子が堕落した人類を贖うためにこの世に来られ、ご自分の大いなる力のしるしを、わたしたちに与えられた。このお方は、ご自分を受け入れる者が、サタンのあらわすあらゆる性向に束縛されない品性を築きあげることを可能にされる。わたしたちは敵とその軍勢すべてに抵抗することができる。キリストを自分の指導者として選び、それが正しいがゆえに正しいことを行う決心をする者はその戦いに勝ち、勝利を得る。

わたしたちの神なる主は、どのような緊急事態にも対応し、このお方にとって不可能なことは何もない。このお方は、自己否定と犠牲の生涯を送り、激しい苦しみをともなった死によって、わたしたちに対する大いなる愛を示された。あるがままでただキリストのところに来なさい。……このお方のあわれみに、まったくあなたの身を投げ出しなさい。このお方の力強さで覆うことのできないほどの困難は内にも外にもない。

ある者は荒々しい気性であるが、ガリラヤの嵐の海を静められたお方は、苦しみ悩む心に向って「静まれ、黙れ」と言われる。もしも心がキリストの管理に従うなら、キリストが従わせることのできないほど反抗的な性質はなく、このお方が鎮めることのできないほど荒々しい気性もない。

自分の魂をキリストに委ねる者は落胆する必要はない。わたしたちにはすべてに力強い救い主がおられるのであるから、あなたの信仰の創始者であり完成者であるイエスを見つめることによって、「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない」と、言うことができる(詩篇 46:1, 2)。……

わたしたちの贖い主にあって、もっと確信を持とうではないか。元気を回復するために、レバノンの水から離れて、水をためておくことのできない、壊れた水がめに探し求めるのを止めよう。イエスに信頼して頼るなら、勝利が可能なだけではなく、確かなものとなる。大多数の者が間違った道を押し進んでいても、外見は非常に落胆させるものであっても、わたしたちは「わたしは神であって、わたしのほかに神はない」と宣言される、わたしたちの指導者に完全な信頼をおくことができる(イザヤ 45:22)。このお方は力において無限であり、ご自分に来るすべての者を救うことがおできになる。わたしたちが間違いなく信頼できるお方は他にはない。(レビュー・アンド・ペラルド 1910 年 6 月 9 日)

神の啓示であるキリスト

「父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。」 (ヨハネ 16:27)

宇宙の神の聖潔と栄光を注意深く見ることにより、わたしたちは恐怖に満たされる。このお方の正義は、ご自身が罪を犯した者を解放することを許さないことを知っているからである。しかしわたしたちは、恐怖に満たされたままでいる必要はない。なぜなら、キリストが、神のご品性をあらわし、養子にした子供たちに対する父のような愛を、わたしたちに明らかにするために来られたからである。わたしたちは自然界の驚くべきみわざによってだけで、神のご品性を判断すべきではなく、わたしたちの地上の両親よりも、もっとあわれみ深く、思いやりに富んだ優しいお方としてエホバをあらわされたイエスの単純で麗しい生涯によって、神のご品性を判断すべきである。

イエスはみ父を、わたしたちが信頼し、自分の望みを訴えることのできるお方として紹介された。わたしたちが神を畏れて、その栄光と威厳についての思いで圧倒される時、御父はキリストをご自分の代表者としてわたしたちに指し示される。あなたが見ることのできる、イエスの内にあらわされている優しさと同情と愛は、父の特性の反映である。カルバリーの十字架は、人に神の愛を示す。キリストは宇宙の統治者を愛の神として表現し、預言者の口を通して、「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは慈愛をもってあなたを引きよせてきた」と言われた(エレミヤ 31:3 英語訳)。

わたしたちはキリストの名という功績によって神に近づくことができ、神は、わたしたちの試練や誘惑をご自分のところに持ってくるようにと招かれる。なぜなら、すべてを理解しておられるからである。神は、わたしたちが自分の苦悩を人間の耳に注ぎ込むことは喜ばれない。わたしたちは、キリストの血によって、「わたしの受け入れは、わたしの愛する子の内にある」と言って、必要な時に恵みの御座に来て、助けを得る恵みを見出すことができる。「というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中にあって、父のみもとに近づくことができるからである」「この主キリストにあって、わたしたちは、彼に対する信仰によって、確信をもって大胆に神に近づくことができるのである」(エペソ 2:18, 3:12)。

地上の親が子供に、いつでも自分のところに来るようにと励ますように、主は、わたしたちが自分の欠乏や困惑、また感謝の気持ちや愛をご自分の前に置くようにと励まされる。すべての約束は確かであって、イエスはわたしたちの保証人、また仲保者であり、わたしたちが完全な品性を持つことができるために、わたしたちの求めに応じてあらゆる援助を備えておられる。(ユース・インストラクター 1892 年 9 月 22 日)

相互の契約

「しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ 1:12)

救いは相互の契約によって確実になる。「その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」あなたは、あなたの心と思いと魂すべてをもって、この契約に入るのだろうか。(原稿8,1914年)

品性建設の働きをするための力と知恵を求めて、信仰と愛に満ちた信頼をもってあなたの贖い主を見なさい。このお方は、精錬するお方として、すべての不純物から金と銀を精錬するために座られる。だから、このお方の方を絶えず気をつけて見ていなさい。そうすれば安っぽい、価値のない材料があなたの品性建設の組み立てに持ち込まれることはない。

信仰によって、あなたは神の御子の血の功績を受け入れることができる。御子は、罪人が滅びないで永遠の生命を得ることができるためにその血を流して下さったのである。神は御子の上にすべての力を置かれたが、それはサタンと絶交し、キリストを自分の唯一の希望として認めるすべての者に、御子が助けを分け与えることができるためであった。……あなたが、堕落からあなたを守ることのできるお方と協力する準備ができた時、あなたの決意は幾分価値のあるものとなる。癒し主であるキリストはあなたを治して下さる。このお方は熱心なすべての者と共に力強く働き、力と勝利をお与えになる。すべての劣った品性の悪い傾向は、あなたをご自分の所有物として価を払われたお方によって拭い去られる。……

敵と絶交しなさい。空中の力の君とその仲間の軍団から自分自身を解き放ちなさい。

サタンは、主の側に立つことを選ぶ者たちの努力に敵対し、その努力を挫折させようとあらゆる種類の惑わしに訴えるであろう。しかし、神はご自分の真理と義を探し求める者の罪を負うために、ご自身の御子を与えて下さった。御子は、信仰をもってご自分を見つめる一人一人に恵みを分け与えようと待ちかねておられる。

信仰と雄々しい勇気を実行に移すと、クリスチャンであるということが何を意味するのかについての理解力を深める。わたしたちは、愛によって働き、魂を清める信仰を求めなければならない。わたしたちは、悪に対する遺伝的な、また培ってきた傾向と厳しい戦いをするであろう。そこには、わたしたちの救いの将に堅く頼る信頼がなければならない。このお方はご自分の分を果すのに失敗なさることはない。(原稿8,1914年)

心の変化

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえ りなさい。それは、慰めの時が主のみ前から来るためである。」(使徒行伝 3:19, 20)

救われるためには、わたしたちは真の改心の意味を、経験によって知らなけ ればならない。クリスチャンであると公言しながら、その名にふさわしくないまま で一日一日を過ごしていくのは、男性にとっても女性にとっても恐ろしい誤りで ある。神の御目には人の公言も立場も意味がなく、「その生活はわたしの教訓に 調和しているか」と、問われるのである。改心をしていると思ってはいるが、神 のみ言葉の中にあらわされている品性のテストに耐えることのできない人が多い。

改心とは、不義を止め、義へと変るという心の変化である。キリストの功績に 頼り、キリストにあって真の信仰を働かせることにより、悔い改めた罪人は罪の 許しを受ける。悪を行うことを止め、善を行うことを学ぶ時、その人は神の恵み と知識の内に成長する。彼は、イエスに従うためには世から分離しなければなら ないことを知り、その価を計算した後、もし自分がキリストを勝ち取ることさえで きるなら、すべてを不必要なものと見なす。彼はキリストの軍隊に入隊し、生来 の傾向と利己的な欲望に対して戦いつつ、自分の意志をキリストの意志に従わせ ながら、勇敢に喜んで戦闘に従事する。 彼は、日毎に主に恵みを求めて、力づ けられ、助けを受ける。かつては自己が彼の心を支配し、世的な楽しみが彼の 喜びであったが、今は自己がその座を去り、神が最高位を占めておられる。彼 の生涯は義の実をあらわしている。かつては罪を愛したが、今は憎んでおり、彼は、 堅実に断固として聖潔の道をたどる。これがまことの改心である。……

改心と聖化において、人は神と協力しなければならないことを忘れないように しよう。「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい」とみ言葉は宣言する。 「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは 神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ピリピ 2:12, 13)。人 は自分の意志を働かせることによって自分自身を変えることはできない。この変 化を達成することのできる力を持っていないからである。再び新しくするエネル ギーは神から来なければならず、その変化は聖霊によってのみなすことができる。 救われたいと願う者は、身分が高かろうと低かろうと、金持ちであろうと貧乏で あろうと、この力の働きに屈服しなければならない。(原稿8,1914年)

神の恵みは生涯を一変する

「あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。」(ヨハネ 3:7)

聖霊による心の改心という偉大な真理が、ニコデモに対するキリストのみ言葉の中で表されている。「よくよくあなたに言っておく。だれでも上から生まれなければ、神の国を見ることはできない。……肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である」(ヨハネ 3:3-6)。()0 ()0 ()1 ()1 ()1 ()2 ()3 ()4 ()7 ()3 ()5 ()6 ()6 ()7 ()7 ()7 ()7 ()8 ()9 ()

神の恵みが生涯を改変するために働くのは、心を再び新しくすることによってである。単なる外見上の変化は、わたしたちに神との調和をもたらすのに充分ではない。この悪い習慣、あるいはあの悪い習慣を正すことによって改革をし、この方法でクリスチャンになろうとする人がたくさんいるが、彼らは間違ったところで始めている。まず最初の働きは心からである。……

真理のパン種は魂を改変するために、人目につかず、静かにしかも着々と働く。 生来の傾向は和らげられ、抑制されて、新しい思想、新しい感情、新しい動機 が植えつけられる。品性の新しい標準、すなわちキリストの生涯が定められる。 心が変り、能力は新しい方針に従って活動を開始する。人は新しい能力を与えら れるのではなく、その人の持っている能力が清められるのである。良心が目覚め る。

聖書は、品性のこの改変のために偉大な働きをする。キリストは「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」と祈られた(ヨハネ17:17)。あらゆる清くない属性を抑えつつ神のみ言葉を研究し、これに従うなら、み言葉は心の内に働く。聖霊が罪を悟らせるために訪れ、心の内にわき上がる信仰は、キリストに対する愛によって、わたしたちを、体も魂も霊もキリストの意志に従わせるようにと働く。

人は自分の危険な状態が分り、品性の変化、心の変化が必要であることを知って、心を動かされ畏れが生じる。神の御霊が彼の内に働き続け、彼は自分の品性の欠点を見つけ出し、自分の人生にとって必要な変化を成し遂げるために何をすることができるかを知ろうと努力しながら、自分自身のために働く。……彼は自分の罪を神に告白し、もしも自分がだれかを傷つけたのであったら、自分が傷つけたその人に、自分の非を告白する。……彼は御霊の働きと調和して行動するので、その人の改心は本物である。(同上)

目には見えない力強い力

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである。」(ヨハネ 3:8)

聖霊はあらゆる人と共に努力をする、魂に語りかける神のみ声である。(レピュー・アンド・ヘラルド 1897 年 7 月 27 日)

最も学識のある人でも人間の理論は、人の心と品性に作用する聖霊の働きを 定義づけることはできないが、その生活と行動に及ぼす効果を見ることはできる。

神の御座を見ることはできなくても、わたしたちは、不正や罪のうちに死んでいた人々が御霊の働きによって悟り、改心するようになることを知っている。軽率な気まぐれな者がまじめになる。非情な者はその罪を悔い改め、不信仰な者は信じる者となり、賭け事の好きな者、大酒飲み、不道徳な者が堅実で酔っていない者、純潔な人となる。反抗的で強情な者が柔和でキリストに似た者になる。

わたしたちが品性のうちにこのような変化を見る時、神の改心させる力がその 人全体を改変させていることを確信する。聖霊は見えなかったけれども、わたし たちは、非情で頑固な罪人であった人々の改変した品性のうちに、聖霊が働いた 証拠を見た。風が高い木々をその強い力で動かし、倒してしまうように、聖霊は 人の心に同じ働きをすることができ、有限な人間はだれも神のみわざを制限する ことはできない。…

あなたは働いているその作用そのものを見ることはできないが、その効果を見ることはできる。(同上 1896 年 5 月 5 日)

キリストのみ言葉を聞くだけではなく行なう者は、聖霊の働きをその品性のうちにあらわす。聖霊が心の内に働きかけるその結果は、外にあらわれた品行で明らかにされる。クリスチャンの生涯はキリストと共に神の内に隠され、神は、彼らが「あなたがたはわが証人である」と宣言しておられるお方のものであることを認められる。彼らは、神の力が自分たちの心に感化を及ぼし、自分たちの品行を形づくっていることを証する。彼らの働きは、御霊が内なる人を動かしているという証拠を示し、彼らと関りを持つ人々は、彼らがイエス・キリストを自分たちの型としていることに気づく。

神とのつながりを持っている人々は、聖霊の力にとって管である。…魂の内側にある生命は、おのずと外側のふるまいに表れる。(同上5月12日)

罪のための確実な治療

「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18)

わたしたちを心の底から喜ばせるのは、神が罪を許してくださるという事実である。もしもわたしたちがこのお方をそのみ言葉通りに受け入れ、自分の罪を捨てるなら、神はわたしたちをすべての不義から清めようと用意しておられる。このお方はわたしたちに純潔な心を与え、ご自分の御霊を宿らせて下さる。なぜならイエスが、わたしたちのためにとりなしをするために生きておられるからである。……霊的な事柄は霊的に識別される。それは神のみ旨を識別し、そのみ約束を自分のものとし、そのみ言葉の真理から教訓を受ける、生きた活動的で、変わることのない信仰である。それはわたしたちが義なる者だからではなく、わたしたち自身は依存している者、欠点の多い罪を犯す無力な者なので、自分の義ではなくキリストの義に頼らなければならないからである。(手紙 4, 1889 年)

あなたがキリストのみ言葉を、あたかもあなたに個人的に話しかけられたものとして受ける時、一つ一つのみ言葉を、あたかもキリストがそのために死なれたのは地上にただその罪人一人だけのためであったかのように、自分自身に適用するなら、あなたは十字架に掛けられ、よみがえられた救い主の血の功績を、信仰によって主張することを学ぶ。……

多くの者は、自分の品性の欠陥が、キリストが掲げられた基準に見合うのは不可能であると感じるが、そのような人がしなければならないすべてのことは、神の力強いみ手の下に、へりくだって一歩一歩、歩むことである。キリストは人が働く量でその人を量るのではなく、その働きがなされる精神によって人を量られる。

へりくだった心で重荷を担おうとしながら、自己に信頼せず、キリストに頼りつつその重荷を持ち上げている人々を御覧になる時、このお方は、彼らの働きに完全と充足を加えられるので、その働きは御父に受け入れられる。わたしたちは愛されているお方、キリストに受け入れられている。罪人の欠陥は、わたしたちの義なる主の完全と満ちあふれる豊かさによっておおわれる。真面目な気持ちで悔い改めた心を持ち、神のご要求に従って生きようと、へりくだった努力をしている人々を、神は憐みに満ちた優しい愛をもって御覧になり、従順な子とみなされる。そしてキリストの義が彼らに着せられる。(同上)

新しい創造

「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

わたしの最も奥深いところにある魂を改心させて下さいと、神に叫び求めなさい。神に、このお方の恵みによる改変する力を嘆願しなさい。神があなたにあなた自身を分らせるだけでなく、ご自身をあらわして下さって、あなたが今まで感じることも気づくこともなかった力強さと支え、輝きと力をイエスの内に見ることができるまで、ヤコブがしたように、あなたの救い主をしっかりとつかんでいなさい。あなたの魂の救いが大きな危機に陥っているので、あなた自身の魂を今欺かないようにと、あなたに嘆願する。もしもあなたの信仰がみ約束を辛抱強くつかんでいるなら、あなたは打ち勝つであろう。そしてこれこそ、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。

あなたが自分自身に真実であるかぎり、地と地獄の敵意に満ちた力があなたの平安を乱したり、神とのあなたの交わりを邪魔することはできない。あなたが神を畏れるなら、不確かな状態で歩む必要はない。あなたがこのお方を喜ばせるなら、あなたの魂が欲するすべてのものを、あなたは手に入れる。ある著名なクリスチャンの言葉は、「わたしは自分の義務をすべて分っていないかを恐れ、その義務を行なうのに失敗することを恐れる以外に、わたしにはこの宇宙に恐れるものはない」であった。

どのような犠牲が要求され、どのような自己否定を要求されても、イエスのために立ち上がりなさい。イエスのために立ち上がりなさい、どこででも。どこにいてもイエスのために立ち上がりなさい。あなたの仕事はすべて神の御目が、完全にあなたに向けられ、すべての行動を認識しておられることを、幕を通してあなたが見ることができるかのように、行いなさい。そうすればイエスがあなたのために立ち上がって下さる。

あなたの短い不確かな生涯を、将来における不死の生涯のための絶え間ない 準備期間としなさい。わたしたちの持っている品性が分り、欠陥を治すために、 わたしたちに誘惑が訪れることが許されている。魂を欺き、滅びへと誘い込むた めに偽装した罪への誘惑が絶えずある。サタンは光の天使に変装して、魂を破 滅させることで神からその栄光を奪おうと絶えずたくらんでいる。あなたの魂のた めに悪魔に立ち向かうようにと、あなたに嘆願する。そうすれば、悪魔はあなた から逃げ去るであろう。あなたの無力な魂を神にあずけなさい。(手紙 42, 1879 年 個人的な嘆願の手紙より)

羊飼いの優しい世話

「よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔い改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。」(ルカ15:7)

道に迷った一匹の羊を探すために、九十九匹の羊を残して出かけた羊飼いの美しいたとえ話は、偉大な羊飼いであるお方の心配りを描いている。この羊飼いは、おりの中の羊を不注意に見渡して、「九十九匹いるから、一匹ならば迷っているのをわざわざ探しに行くほどのこともない。帰ってきたら、おりの扉を開けて入れてやろう。探しには行けない」とは言わなかった。そうではなく……彼は群を何度も数えなおして、確かに一匹いなくなっていることが分った時、時間を無為に過ごさなかった。九十九匹をおりの中に入れ、暗く嵐のような夜であったけれども、又、危険にみちた快くない道ではあったけれども、長くうんざりするような捜索であったけれども、彼は、見失っていたその羊が見つかるまで疲れることなくたじろぎもしなかった。

しかしその羊が見つかった時、この羊飼いは冷淡な行動をとるだろうか。羊に声をかけさまよっていたその羊に自分についてくるようにと命令するだろうか。この羊を脅かし、打ちたたいたり、あるいはこのことのために自分が味わったつらさや当惑、また不安を思いかえしながら、その羊を自分の前で追いたてるであろうか。そうではなく、この羊飼いは、疲れてへとへとになっていた迷子の羊を肩に乗せ、……おりに連れ帰る。彼の感謝の気持ちは、喜びの美しい調べにのせた歌の中に表現されており、天の聖歌隊が羊飼いの喜びの調べに応じる。……なぜなら「罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にある」からである。イエスは「わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている」と言われる(ヨハネ 10:14)。地上の羊飼いが自分の羊を知っているように、羊飼いの長であるお方は、全世界にくまなく散らされているご自分の群れを知っておられる。……「あなたがたはわが羊、わが牧場の羊である。わたしはあなたがたの神であると、主なる神は言われる」(エゼキエル 34:31)。(レビュー・アンド・ヘカルド 1892 年8月23日)

わたしたちは、身分が高かろうが低かろうが、逆境のもとにあろうが、繁栄の 日だまりの中にいようが、キリストの羊、このお方の牧の群れであって羊飼いの 長の世話の下にいる。(同上)

神がわたしを選ばれた

「神があなたがたを初めから選んで、御霊によるきよめと、真理に対する信仰と によって、救を得させようとし、」(テサロニケ第二 2:13)

この聖句の中には、人の救いにおける二つの働き、すなわち神の感化とキリストに従う人々の強い生きた信仰とがあらわされている。……

聖化は一日や一年の働きではなく、生涯をかけての働きである。自己に打ち勝とうとする苦闘、聖潔と天国を求める努力は生涯をかけての苦闘である。……パウロの聖化は自己との絶え間ない戦いの結果であった。彼は「わたしは日々死んでいる」と言った(コリント第一 15:31)。……

わたしたちがサタンの誘惑に勝利し続けることができるのは止むことのない努力によってである。クリスチャンの高潔さが妨げられることのないエネルギーで捜し求められ、意志の堅いしっかりとした目的をもって維持されねばならない。

極めるべきキリスト教の科学、すなわち天が地よりも高いように、どのような人間の科学よりもはるかに深く、広く高い科学がある。心がしつけられ、教育され訓練されなければならない。なぜなら、わたしたちは生来の傾向とは調和しない方法で神に奉仕をしなければならないからである。克服しなければならない遺伝的な、また培われた悪への傾向がある。わたしたちの心は、神にあって不動となるよう教育されなければならない。わたしたちは、誘惑に抵抗することのできる思いを習慣づけなければならない。正しいことを堅く守り、聖なる努力をする生活によって、神の子らは自分の運命に印を押すべきである。……

ヨルダン川でイエスに語られたその言葉は人間を取り囲んでいる。神は、わたしたちの代表者としてのイエスに語られた。わたしたちの罪と弱さすべてをもってしても、わたしたちは価値のない者として棄て去られることはない。「彼はわたしたちを愛する御子によって受け入れられた」(エペソ1:6 英語訳)。キリストの上にとどまった栄光は、わたしたちに対する神の愛の堅い約束であり、祈りの力、すなわち、人間の声がどのようにして神の耳に届くことができ、わたしたちの嘆願がどのようにして天の宮廷で受け入れられたことが分るかについて、わたしたちに伝えている。……開かれた天の門からわたしたちの救い主の頭上に降りそそいだ光は、わたしたちが誘惑に抵抗するために助けを求めて祈る時にもわたしたちに降りそそぐ。イエスに語られた声はすべての信じる魂に、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」と言われる。(レピュー・アンド・ヘラルド1908 年 10 月 15 日)

天と協力する

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。」(ピリピ 2:12, 13)

人は、魂の救いの働きにおいて、まったく神に依存している。神の御霊が彼を引き寄せてくださるのでなければ、彼は自分自身で、一歩もキリストに向かって進むことができない。そして、彼があくまでも拒んで聖霊を悲しませるまでは、このように絶えず引き寄せてくださり、また引き寄せ続けて下さるのである。……

御霊は絶えず魂に神の事柄を垣間見させてくださる。そしてそのとき、神のご 臨在が近くに漂っているように見える。

そして、もし思いが応じるならば、もし心の戸が開かれるのならば、イエスは 人間と共に宿ってくださるのである。……

神の御霊は、願いを持つことにおいても、行うことにおいても、わたしたちの役割を果たそうと仰せにはならない。……わたしたちが自分の意志を神のご意志に調和させようと傾くや否や、キリストの恵みが人間と協力しようとそこに待機している。しかし、それは、わたしたちの決意に満ちた断固たる行動と関係なく、わたしたちの働きを代わってなすことはない。であるから、魂を改心させるのは、光の豊かさや、証拠に次ぐ証拠ではない。それは、ただ人が光を受け入れ、意志のエネルギーを目覚めさせ、自分が知っていることが義であり真理であるということを悟り、また認め、こうして魂を救うために神がお定めになった天の助けと協力することによってのみ、魂は改心するのである。

もし罪人や背信者が自分自身を不服従と罪のうちに固定してしまうならば、光が彼を取り囲んでひらめき渡っても、……偽りや世の欺瞞の呪文の惑わす力を打ち破ることはないのである。……

聖化されていない意志に調和した、欺瞞者の声に従ってはならない。そうではなく、神のお与えになった推進力に従いなさい。……すべてのものが危険にさらされている。人間は神が「その願いを起させ、かつ実現に至らせる」ことに協力するであろうか。もし人が自分の意志を神の側に置き、自己を完全に神の御旨に明け渡すならば、高くて高尚な人間の努力は、人が自分自身で打ち立ててきた障害物を打ち倒し、心の戸からごみは取り除かれ、魂をふさいでいた反逆は打ち倒される。心の戸は開かれて、イエスがお入りになり歓迎された客として宿られるのである。(手紙 135, 1897 年)

陶器師のみ手のうちで

「されど主よ、あなたはわれわれの父です。 われわれは粘土であって、あなた は陶器師です。われわれはみな、み手のわざです。」(イザヤ 64:8)

神のみ言葉の中で、神はご自身を陶器師と、そしてご自分の民を粘土と対比しておられる。このお方のみ働きは、彼らをご自分に似た姿にかたどり、形成なさることである。彼らが学ぶべき教訓は服従の教訓である。自己が目立ってはならない。もし神の指示にしかるべき注意が払われるならば、もし自己が神の御旨に明け渡されるならば、陶器師の御手は均整の取れた器を作られるのである。(SDA パイプル・コメンクリ 「E・G・ホワイト・コメント」 4 巻 1154)

純粋なキリストとのつながりの美徳は、次のみ言葉への服従が伴っている。「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい…」この経験のある働き人は、人知を超えた満ち満ちた愛を知りたいと激しく切望している。神の愛を享受する彼の能力は、絶えず増し加わる。日毎にキリストの学校で学び、彼は永遠にいたる雄大な真理の意味をつかむ能力が絶えず増し加わるのである。……

彼は自分が神の働かれる材料であること、そして自分が神の御手のうちで抵抗してはならないことを悟る。試練が彼に訪れる。なぜなら、試練と失望によって試されない限り、彼は自分の知恵と経験の欠乏が決してわからないからである。

もし彼が謙遜と信頼をもって主を求めるならば、すべての試練が彼の益となる。彼は時に失敗するように見えるかもしれないが、彼が立ちたいと思っている立場に到達できなかった失敗と思えることが、彼を前進させる神の方法かもしれないのである。彼は自分が失敗したと思うが、彼が失敗だと思えたことによって自分自身をより良く知り、神により堅く信頼することになる。……彼は間違いを犯すかもしれないが、しかし彼はこれらの間違いを繰り返さないことを学ぶ。まことのぶどうの木であられるキリストと一つになることによって、彼は神の栄光につく実を結ぶことができるようにしていただくのである。……

主はわたしたちが柔和で、へりくだり、罪を悔いる者であってほしいと望まれるが、さらに神の御旨を知る知識からくる確証に満たされているようにと望んでおられる。このお方が「わたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。…神はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さったのであるが、それは、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に基き、また、…恵み」によるのである(テモテ第二1:7-9)。(原稿121,1902年)

天の選択

「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。」(ペテロ第二 1:10)

これが、聖書の語る唯一の選択である。罪に堕落していながら、わたしたちは神性にあずかり、どんな科学的な学識にもはるかに勝った知識を得ることができる。十字架にかかられたわたしたちの主の肉と血にあずかることにより、わたしたちは永遠の命を得るのである。 ヨハネ 6 章の中にわたしたちは「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があ」るのを読む (ヨハネ 6:54)。「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」(同 63 節)。

だれ一人として永遠の命を失う必要はない。日毎に天の教師から学ぶことを選ぶ者は全て、自分の召しと選びを確かにしているのである。わたしたちは神のみ前に自分たちの心を低くし、そして正しく知ることが永遠の命であるこのお方を知ることを切に求めよう。

「ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。 そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。こうして、わたしたちの主また救 主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるか らである」(ペテロ第二 1:10, 11)

ここにあなたの生命保証書がある。これは、あなたの死後にだれか別の人が 益をこうむる証書ではない。それはあなたに神の命で測られる命、すなわち永遠 の命を保証する証書である。何という保証!何という希望であろう!わたしたちは、 いつも世に自分たちがさらに良い国、天国を求めていることを示そう。天国はわ たしたちのために造られた。そしてわたしたちはその場所にあずかりたいのである。 わたしたちは何物にも、神と天から自分たちを引き離すものを許すわけにはいか ない。この生涯において、わたしたちは神性にあずかる者とならなければならな い。兄弟姉妹方、あなたがたが生きるのは一生だけである。その生涯が徳の生涯、 キリストと共に神のうちに隠された生涯となるように!

わたしたちは一致して、品性の完全を得るよう、互いに助けなければならない。この目的のために、わたしたちは、全ての批判を止めなければならない。前進、さらに前進と、わたしたちは完全に向かって進んでいき、ついには、天の国に入る恵みが、わたしたちに豊かに与えられるようになることができる。(レピュー・アンド・ヘラルド1904年5月26日)

小さな天国

「すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者よ、主を求めよ。正義を求めよ。 謙遜を求めよ。そうすればあなたがたは主の怒りの日に、あるいは隠されることが あろう。」(ゼパニヤ 2:3)

まもなく地上に起ころうとしていることを思い、兄弟姉妹方、わたしはあなたがたに、イエスがあなたを心にかけて下さっていることを覚えつつ、まったく柔和と思いのへりくだりのうちに神のみ前を歩むようにと嘆願する。すべて主の命令を行うこの地のへりくだる者は、このお方を求めるようにと熱心に勧告されている。…自己を神のみ前に木端微塵にしなさい。こうすることは困難なことである。しかし、わたしたちは、岩の上に落ちて砕けるようにと警告されている。さもなければ、それがわたしたちの上に落ちてきて、わたしたちを粉砕してしまうのである。イエスが語られるのは、心のへりくだった者たちである。このお方のとこしえのみ腕が彼らを抱かれる。そしてこのお方は、彼らが悪人たちの手で滅びるままに放っておかれるようなことはない。

クリスチャンになるとはどういうことであろうか。それはキリストのようになるということである。それは、キリストの働きをするということである。ある者はあるところで失敗し、他の者は別のところで失敗する。ある者は生まれつき短気である。サタンは彼らの弱さを知り、何度も何度も、なんとか彼に打ち勝とうとする。しかしだれ一人、これによって失望してはならない。小さな困惑や試練が起こるときいつでも、それらに忍耐強く堪えるためにあなたに強さと恵みを賜わるよう、神に静かに祈り求めなさい。沈黙の祈りに力がある。あなたが天の神に嘆願をするまでは、一言も語ってはならない。もしあなたがいつもこうするならば、あなたはまもなく自分の性急な気質を克服し、そしてあなたは天国に入るために、ここで小さな天国を持つようになるのである。

神はご自分の民が自分たちの手を清め、自分たちの心を純潔にすることを望んでおられる。こうすることが彼らを不幸にするであろうか。もし彼らが親切で忍耐強く、礼儀正しくて寛容であるならば、彼らの家族に不幸がもたらされるであろうか。それどころか、まったく逆である。彼らが自分たちの家族に表す親切は自分自身に帰ってくる。これが家庭で実行されるべき働きである。もし家族のメンバーがここで平和に暮らす準備ができていないのであれば、彼らは、偉大な白い御座の周りに集まる家族の中で暮らす準備はできていないのである。……

わたしたちは、キリストの血の功績により頼んで、自分たちから罪を分離させることを求めなければならない。そして、敵がわたしたちに押し迫る苦悩の日には、わたしたちは御使たちの間を歩くのである。彼らはわたしたちの周りを取り囲む火の垣のようになる。そしてわたしたちは、いつか、神の都で彼らと共に歩むのである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1908 年 11 月 19 日)

永遠のために建設する

「あなたがたが全き人となり、神の御旨をことごとく確信して立つように。」(コロサイ4:12)

無限のお方、すなわち性質の闇の無秩序と混乱の中から秩序と麗しさをもたらすことのおできになる唯一のお方が、人の反逆的な心を鎮めその生涯を神の御旨に一致させることがおできになるのである。このお方の御霊は人の反逆的な気質を鎮めることがおできになる。…

日毎にわたしたちは品性を建設している。そして、わたしたちは永遠のために築いているのである。神はわたしたちが自分たちの生活において、世の人々に彼らがどのようになるべきかまた彼らがキリストの福音に服従することによってどのようになれるかという模範を示すように望んでおられる。わたしたちは、このお方が最善と思われるとおりに扱っていただくために、神の御手の内に自らの身をおこう。…「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一3:9)。もしわたしたちがこのお方と協力して建てるならば、わたしたちが築く建築物は、日毎に建築家であられるお方の御手の下で、ますます美しく、ますます均整の取れたものに成長していく。そして永遠にわたってその建築物は持ちこたえるのである。

聖化は漸進的な働きである。それは継続的な働きであり、人間をより高く、 さらに高く導く。それは愛を置き去りにするのではなく。まさにキリスト教の真髄 として生活の中に持ち込むのである。

キリストはわたしたちに「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と仰せになる(マタイ 5:48)。このお方がわたしたちの模範であられる。地上での生涯の間、このお方はいつも親切で優しかった。このお方の感化力はいつも香り高いものであった。それはこのお方に完全な愛が宿っていたからである。このお方は決して不機嫌であったり、近寄りがたかったりなさることはなかった。そしてこのお方は決して気に入られるために悪と妥協なさることがなかった。もしわたしたちがこのお方の義を持っているならば、わたしたちも、親切と寛容と無我の愛においてこのお方のようになるのである。わたしたちはこのお方のご臨在の日差しの中に住むことによって、このお方の恵みによって熟成されないであろうか。

わたしたちの信仰告白に誉れを帰そう。わたしたちは自分たちの生涯を品性の美しい気質で飾ろう。言葉や行動の荒々しさはキリストのものではなく、サタンのものである。わたしたちは、自分たちの不完全さと醜さに固執することによって、キリストにわたしたちを恥と思わせるのであろうか。このお方の恵みがわたしたちに約束されている。もしわたしたちがこれを受けるならば、それはわたしたちの生涯を美しくする。…醜さが善と完全に取って代わる。わたしたちの生涯はキリストの生涯をあれほど麗しくした恵みによって飾られるのである。(レピュー・アンド・ヘラレド 1904 年 1 月 14 日)

神との正しい関係において

「イエスは彼に答えて言われた、『もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう』。」(ヨハネ 14:2, 3)

キリストがここで御父とその子らの間に存在しているものとして明らかにしておられる親しい関係を考えて見なさい。このお方のご臨在と守りとは、不変のものである。わたしたちがキリストの救う御力に信頼している間、堕落した万軍の技法や策略は、少しもわたしたちを傷つけることができない。天の御使たちが絶えずわたしたちと共にいて、導き、保護している。神は、わたしたちがご自分のみ旨をすべてなすことができるように、ご自分の守りの御力がわたしたちと共にあるようにとお定めになった。わたしたちは約束をつかみ、一瞬一瞬それらを大事にしていよう。神が仰せになったとおりをそのまま信じよう。(レピュー・アント゚・ヘラルト゚1909年1月7日)

キリストを信じる者には、自分を神との正しい関係におくのにまったく十分な 経験を得る可能性がある。神の書物の中にあるすべての約束は、わたしたちが 神性にあずかる者となれるとの励ましをわたしたちに与えている。神により頼むこ と、神のみ言葉を信じること、神のみ働きをなすこと、これが可能性である。そ して、わたしたちがキリストの神性をつかむとき、わたしたちはこうすることができ る。

この可能性は、わたしたちにとって世の全財産以上に価値がある。地上には、これに匹敵するものが何もない。わたしたちがこうしてわたしたちの手の届く範囲におかれた御力をつかむとき、わたしたちは非常に強い望みを受けるので、完全に神のみ約束により頼むことができるのである。そしてキリストのうちにある数々の可能性をつかむことによって、わたしたちは神の息子娘となる。(同上1月14日)

クリスチャンには高い到達地点がある。彼は絶えずより高い到達地点へと上っていくことができる。ヨハネは、クリスチャンの特権について高尚な観念を持っていた。彼は「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と言っている。人類がここに示されているより高い地位に到達することは不可能である。人には、神の相続者、そしてキリストとの共同相続人となる特権が与えられている。このように高められてきた人々は、世の富の千倍も価値のあるキリストの無尽蔵の富が開かれるのである。こうして、イエス・キリストの功績を通して、有限な人間は神とこのお方のひとり子との交わりに入るのである。(清められた生涯 16, 17)

キリストとの交わり

「神は真実なかたである。あなたがたは神によって召され、御子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりにはいらせていただいたのである。」(コリント第一1:9)

真のクリスチャンは、たえず魂の窓を天に向かって開いている。彼はキリストとの交わりのうちに生きる。彼の意志は、キリストのご意志に一致する。彼の最高の願望は、ますますキリストのようになることである。こうして、彼はバウロと共に「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」ということができる(ガラテヤ 2:20)。

熱心に倦むことなく、わたしたちは、自分たちのための神の理想に到達するよう奮闘しなければならない。わたしたちはこれを苦行としてするのではなく、真の幸福を手に入れる唯一の手段としてするのである。平安と喜びを手にいれる唯一の方法は、ご自分の命をわたしたちに与えてくださったお方、わたしたちが生きられるように死んで下さったお方、そして勝利しようと苦闘している人々の努力にご自分の力を結びつけるために生きておられるお方と生きたつながりを持つことである。

聖潔とは絶えず神に同意することである。わたしたちはキリストが大いにわたしたちになって欲しいと望んでおられる人物、すなわち行いと真理においてクリスチャンになろうと奮闘しないのであろうか。それは世がわたしたちの生活に、真理の救いの力の表れをみることができるようになるためである。世はわたしたちの予備校である。ここにいる間に、わたしたちは試練や困難に直面する。神の敵は絶えずわたしたちを忠誠から引き離そうとしている。しかし、わたしたちがご自身をわたしたちに与えてくださった方にしっかりとついている限り、わたしたちは安全である。

全世界はキリストの掌中に集められた。このお方は死の力を持つ者を滅ぼし、すべての信じる魂の罪を取り除くために十字架上で死なれた。このお方はわたしたちが自らを奉仕の祭壇に、生きた焼き尽くされる犠牲として捧げるようにと要求しておられる。わたしたちは、自分たちの全所有物、また全存在をもって、神へあますことなく献身すべきである。

この地上の初等学校において、わたしたちは高等学校への入学準備をさせる教訓を学ばなければならない。そこでわたしたちの教育はキリストの個人的な教えの下で続けられるのである。そのとき、このお方はご自分のみ言葉の意味をわたしたちに明らかにしてくださる。わたしたちは、わずかわたしたちに残された恩恵期間に、神の王国における命、祝福の永遠を捜し求めている男女らしく行動しないのであろうか。わたしたちはキリストと顔と顔をあわせてお会いし、このお方の唇から贖いの物語をお聞きする特権を受け損なうようなことはできない。(レピュ ー・アンド・ヘラルド1907 年 5 月 16 日)

驚くべき恵み!

「わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。」(エペソ 1:2)

「恵みが、あなたがたにあるように」。わたしたちはすべてを神の無償の賜物に負っている。契約における恵みがわたしたちの養子縁組を定めたのである。救い主にある恵みが、わたしたちの贖い、わたしたちの再生、そしてわたしたちのキリストとの共同相続への昇進をもたらしたのである。わたしたちが初めに神を愛したから、神がわたしたちを愛してくださるのではない。そうではなく、「まだ罪人であった時」、キリストはわたしたちのために死なれたのである。…わたしたちの不服従によって、わたしたちは神のご不興と讃責に値する者であったにもかかわらず、なおこのお方は、わたしたちが敵の力と組み合うままに、わたしたちをお捨てにならなかった。天の御使たちが、わたしたちの戦いをわたしたちのために戦い、彼らと協力することによって、わたしたちは悪の力に対して、勝利することができるのである。

わたしたちは、もし堕落しなかったならば、この「恵み」という言葉の意味を知ることは決してなかった。神はご自分の奉仕をなし、ご自分のすべてのご命令に従順な罪のない御使たちを愛される。しかし、神は彼らに恵みをお与えになることはない。これらの天の存在者は、恵みというのが何かを少しも知らない。彼らはそれを必要としたことがなかった。なぜなら、彼らは罪を犯したことがないからである。恵みとは、その価値のない人間に示される神の特質である。わたしたちが自分でそれを捜し求めたのではなくわたしたちを捜し出すためにそれが送られたのである。神はこの恵みを、それに飢え渇くすべての人にお与えになることを喜ばれる。それは、わたしたちに価値があるからではなく、まったく価値がないからである。わたしたちの必要こそ、この賜物を受ける保証をわたしたちに与える資格である。(レピュー・アンド・ヘラルド1908 年 10 月 15 日)

神は恵みをお与えになろうと、すべての罪に病んだ魂が要求するのを待っておられる。それは、すべての霊的な病を癒す。それによって、心はすべての汚れから清められる。それは、信じるすべての人にとって、福音の治療法である。(原稿75 a, 1900 年)

わたしたちは、聖潔へと向上する道を毎日前進することができる。そしてなお、 わたしたちは到達すべきより偉大な高さを見出すのである。しかし、霊的な筋肉 を伸ばすたびに、心と脳を働かせるたびに、それによって、わたしたちが前進す るとき欠かすことのできない恵みの豊かな供給が明らかにされるのである。

わたしたちがこれらの富を瞑想すればするほど、わたしたちはますますそれらを所有するようになり、そしてますますキリストの犠牲の功績、このお方の義の保護、このお方の筆舌に尽くしがたい愛、このお方の満ち満ちた知恵、そして天父の前にしみもしわもその類のものが一切ない状態でわたしたちを差し出すこのお方の御力を表すようになる。(原稿 20, 1899 年)

平安の賜物

「そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたが たの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。」(ピリピ 4:7)

罪がわたしたちの平安を破壊してきた。自己が征服されない間は、わたしたちは休息を見出すことができない。心の横柄な感情は、どんな人力も抑制できない。わたしたちは弟子たちが荒れ狂う嵐を制圧できなかったように、この点においてまったく無力である。しかし、ガリラヤの大波に平安を語られたお方は、すべての魂のために平安の言葉を語ってこられた。どんなに嵐が激しくとも、イエスに向かって「主よ、お救い下さい」と叫ぶ者たちは、救出されるのである。このお方の恵みは、魂を神に和解させ、人間の感情の闘争を静める。そして、このお方の愛のうちに心は休息を得るのである。……「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」(ローマ 5:1)。「正義は平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安と信頼である」(イザヤ 32:17)。

だれでも罪を捨てることに同意し、自分の心をキリストの愛に向かって開くなら、この天来の平安にあずかる者となる。これ以外に平安の土台となるものはない。キリストの恵みは心に受け入れられるとき、敵意を征服する。それは紛争を鎮め、魂を愛で満たす。神と人類同胞に対して平和関係にある者は、みじめになることができない。妬みは彼の心のうちにない。邪推はそこに場所がない。憎しみは存在することができない。神と調和している心は、天の平安に預かるものであり、その祝福された感化力を周囲全体に放散する。世の紛争に弱り、悩まされている心に平和の精神が露のようにとどまるのである。

キリストに従う人々は、平和の使命と共に世に使わされる。だれでも聖なる生涯の静かで無意識な感化力によってキリストの愛を表す者は、まただれでも言葉と行いによって、他人が罪を捨て、心を神に明け渡すように導く者は、平和を作り出す人である。

そして「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう」(マタイ 5:9)。平和の精神は、彼らが天とつながっている証拠である。キリストの芳しい香りが彼らを取り囲む。命の香り、すなわち品性の麗しさは、彼らが神の子であることを世に表す。人は、彼らがイエスと共にいた者であることを知るのである。(レピュー・アンド・ヘラルド 1908 年 10 月 15 日)

絶望から希望と喜びへ

「どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせて下さるように。」(ローマ 15:13)

もしキリストがわたしたちの犠牲として死なれ、再びよみがえられなかったとしたら、わたしたちは、決して平安を知ることなく、また喜びを感じることもなく、ただ闇の恐怖と絶望の悲惨さとを経験するだけであった。であるから、わたしたちの心の言葉がただ讃美と感謝であるようにしよう。全生涯において、わたしたちはこのお方の天の恩恵にあずかってきたのであり、金銭で買うことのできないこのお方の贖いの祝福を受けてきたのである。であるから、わたしたちは……キリストがわたしたちをそこから引き上げてくださった低俗で無力な状態を心に抱くことは不可能である。わたしたちが苦痛と悲しみと死別の下にあってこれを感じるとき、一つでもつぶやきの思いをもって、わたしたちの贖い主を辱めることがないようにしよう。……わたしたちは自分たちの罪が当然受けるべき苦しみより、どんなに苦しむことが少ないかを測り知ることができないのである。

わたしたちは自分たちの罪が刺し貫いた方を見ながら、屈辱の杯を飲もうと思 わずにいることができるであろうか。わたしたちの罪が苦い杯を混ぜたのである。 このお方はそれをわたしたちの唇から取り除いて、ご自分が飲んでくださった。 それは、その代わりに、わたしたちの唇に祝福の杯をおくことがおできになるた めであった。……魂の言葉は喜びと感謝の言葉になるべきである。もしだれでも、 自分の経験に暗い章があるとすれば、それらを埋葬してしまいなさい。繰り返す ことによって、この歴史を明るみに出しておいてはならない。……感謝、讃美を 生み出す思想と感情だけを培いなさい。……わたしはあなたに決して一言もつぶ やきの言葉を口にしないようにと嘆願する。ただ、謝意と感謝の思いだけを抱い ていなさい。そうすることによって、あなたは自分の心に調べを奏でることを学ぶ ようになる。あなたの経験に感謝という金糸を縦横に織り込みなさい。よりよい 地を瞑想しなさい。そこでは二度と涙は流されない。誘惑も試練も決して経験す ることがない。損失や譴責を知ることもない。すべてのものが平和と喜びと幸福 である。ここでは、あなたの想像力を最大限に活用してかまわない。これらの思 想はあなたをもっと天に思いを向けるものとなさせ、天来の活力をあなたに授け、 あなたの渇いた魂を生ける水の流れで満足させ、あなたの心に神のみかたちの印 を押すのである。それらはあなたを信じる喜びと希望で満たし、とこしえの慰め としてあなたと共に宿るのである。(原稿9,1883年)

なおざりにする危険性

「わたしたちは、こんなに尊い教をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ」(ヘブル 2:3)

キリストのうちに包含されているもの以上に大きな賜物を人に与えることはできない。……非常に尊い救いの宝をつかむことをなおざりにすることは、あなたの魂の永遠の破滅を意味する。神に対する無関心とこのお方の賜物をなおざりにすることの危険性は、救いの偉大さによって測られる。神は、ご自分の全能の力の極限までなしてくださった。無限の愛の資源は、人間のための贖いの計画を考案し実行するためにすべて用いられてきたのであった。神は罪深い反逆の人類を救うために、いつくしみと、恵みと、あわれみと、愛のうちにご自分のご品性を表してこられた。救いの計画のためになされたこと以外に何がなし得たであろう。もし罪人が神のいつくしみの表れに無関心であり続けるならば、もし彼がこれほど偉大な救いをなおざりにするならば、……彼の固い心に触れるために何をなすことができるであろうか。(ルビュー・アンド・ヘラルド 1912 年 11 月 21 日)

贖いの主題には、何という重要性、何という重大性が与えられていることであろう。人間の救いを引き受けられたお方は御父の栄光の輝きであり、このお方の本質の真の姿であられるとは!そうであれば、天はこれほど偉大な救い、人間のためにこのような無限の値を払って実施された救いをなおざりにする人々をどのように見るであろうか。天の豊かな祝福をつかむことをなおざりにするということは、御父と等しいお方、堕落した人類を救うことのおできになる方を拒み無視するということである。ああ、わたしたちは、キリストをなおざりにすることによって、わたしたちの永遠の命のための唯一の機会を投げ捨てるのであろうか。……

何という愛、何という驚くべき愛が、神の御子によって示されたことであろう! わたしたちの当然受けるべき死はこのお方が苦しまれることになった。それは不死が、決してそのような報酬を受ける価値のないわたしたちに与えられるためであった。救いはその単純さにおいて偉大で、その広範囲において驚くべきものではないだろうか。……アダムのすべてのむすこ娘たちがそれによって救われるようにと神が賜った満ち満ちた備えを瞑想するとき、わたしたちはヨハネと共に「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と叫ぶようになる(ヨハネ第一3:1)。……贖いの計画には、魂のすべての緊急とすべての必要のために備えがあるのである。(ルビュ・アンバ・バブリブ・1912 年11 月28 日)

研究 12

わたしたちが信仰の一致に到達するまで



人は、価値があると思うと、それをつかみます。価値のある言葉を受け入れるとき、その言葉が、わたしたちを価値あるものにします。わたしたちが価値のある者になる唯一の方法は、真の価値であられるキリストに宿っていただくことです。

「神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることのない服従の生活となる。<u>キリストのご品性の真価を認めることによって</u>、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる」(各時代の希望下巻 150)。

「<u>しかし聖霊によって真理がはっきり頭にはいらないならば</u>、魂は岩なるキリストの上に落ちてくだけないのである」(各時代の希望下巻 157)。

「みことばを説くことは、聖霊のたえまない臨在と助けがなければ何の効果もない。…<u>真理が聖霊に伴われて心にはいるときにのみ</u>、それは良心をめざめさせ、あるいは生活を一変させる」(同上)。

「輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が<u>創造主の内住される宮となる</u>ことが、永遠の昔から神のご目的であった」(各時代の希望上巻186)。

まず、その真価を見せていただくところから始まります。そして、それを見せて 下さるのも御霊なのです。

神の義を学ぶための調査審判

そして、正しく見るために神の民に与えられているのが、現在進行している神の裁きです。「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。 天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」(黙示録 14:7)。

神の裁きの基準は何でしょうか。「わが安息日を守り、わが喜ぶことを選んで、 わが契約を堅く守る宦官には、わが家のうちで」(イザヤ 56:4,5)、「わたしはま たわが霊をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる」(エゼキエル36:27)。このお方の家のうちにいて、このお方の戒めのうちを歩む者は、「わが安息日」、「わが契約」、「わが霊」を持つものであり、その基準は、ご自分のものかどうかであることがわかります。

1844年から裁きの時が始まりましたが、そのとき、人々は何を見るようになるでしょうか?

「わが魂は夜あなたを慕い、わがうちなる霊は、せつにあなたを求める。<u>あなたのさばき</u>が地に行われるとき、世に住む者は<u>正義を学ぶ</u>からである。悪しき者は恵まれても、なお正義を学ばず、正しい地にあっても不義を行い、主の威光を仰ぐことをしない」(イザヤ 26:9,10)。

裁きの時に学ぶべきこと、それは神の義です。そして、これが調査審判です。 「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない」 (各時代の大争闘下巻 222)。

調査審判は、宣告の前に必要な審判です。アダムの時から、宣告の前には調査がありました。アダムに対しては、「だれが教えたのか」と問われ、カインに対しては「なぜ怒るのか」と問われました。最後の神の裁きにおいても、この調査の後に宣告がなされます。「諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました」(黙示録 11:18)。

神の義を学んだダビデ

この調査審判の目的は何でしょうか?イザヤは裁きによって神の義を学ぶと述べましたが、ダビデの経験がそれを証しています。サムエル記下 11 章ではダビデの罪が記録されています。そして 12 章 1 節からそれに対する調査が始まりましたが、その調査の結果、彼は次のように告白しました。「わたしは主に罪をおかしました」(サムエル記下 12:13)。ダビデは、ここで神の義を学んだのです。そして、神の義を学んだダビデに次の宣告がなされました。「ナタンはダビデに言った、『主もまたあなたの罪を除かれました。あなたは死ぬことはないでしょう』。」(同上)。なんという恵みでしょうか。

同じように、婚宴に招かれる人々は神の義を学ぶ機会が与えられています。

「王は客を迎えようとしてはいってきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て、彼に言った、『友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいってきたのですか』。」(マタイ 22:11,12)。これが調査審判です。しかし、「彼は黙っていた。そこで、王はそばの者たちに言った、『・・・外の暗やみにほうり出せ』。」

聖所と調査審判の問題を理解する

1844 年から始まった聖所における働きを教えるダニエル 8:14 には、「調査 審判」という言葉はありません。ですから、聖所と調査審判の問題を理解する 必要があります。では 1844 年から始まった贖罪の日の働きを見てみましょう。

「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、 あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」(レビ 16:30)。

さらに、「彼は<u>至聖所のために</u>、あがないをなし、また<u>会見の幕屋のため</u>と、 <u>祭壇のため</u>に、あがないをなし、また<u>祭司たちのため</u>と、<u>民の全会衆のため</u>に、 あがないをしなければならない」(レビ記 16:33)。

完全な贖罪、罪の除去が行われます。ここですべてが決定します。ですから、「すべてその日に身を悩まさない者は、民のうちから断たれるであろう」(レビ記23:29)。すなわち、この裁きのメッセージを拒否する者は、民のうちから断たれるということです。

ダニエル7章にその裁きの光景を見ることができます。この裁きはギリシャ語で Krisis と言い、英語の危機 Crisis の語源です。生死を決する重大局面における決定を表しています。では、この裁きにおいて危機を感じているのはだれでしょうか。その裁きによって、小さい角の主権が奪われ、神の民に移されるのです。そのため、サタンは、審判のメッセージを聞けないように激しく働いています。だからこそ、わたしたちは、この裁きのメッセージをたずさえてきた第一天使の永遠の福音を正しく理解する必要があります。

「わたしが見ていると、もろもろのみ座が設けられて、<u>日の老いたる者</u>が座しておられた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりもののない羊の毛のようであった。そのみ座は火の炎であり、その車輪は燃える火であった。彼の前から、ひと筋の火の流れが出てきた。彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々、<u>審判を行う者はその席に着き</u>、かずかずの書き物が開かれた」(ダニエル 7:9, 10)。

「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、<u>人の子のような者</u>が、天の 雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた」(ダニエル 7:13)。

その裁きにおいて、ゼカリヤは次の幻を見ました。「時に主は大祭司ヨシュアが、 主の使の前に立ち、サタンがその右に立って、これを訴えているのをわたしに示 された」(ゼカリヤ 3:1)。

しかし、「『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからであ

る』という永遠の福音のメッセージ」とあります(各時代の大争闘下巻 65)。では、だれにとって福音なのでしょうか?

「ついに日の老いたる者がきて、<u>いと高き者の聖徒のために</u>審判をおこなった。 そしてその時がきて、この聖徒たちは国を受けた」(ダニエル 7:22)。

いと高き者の聖徒たちにとっては、福音です。そう感じるかどうかは判断基準 になりません。この調査審判は、神の民に神の義を学ばせ、御国を継がせるた めなのです。 自身が彼らの中にお立ちになって、祝福のうちに手を上げて、言われました「安かれ」(ルカ 24:36)。

彼らは初めは驚いていましたが、このお方が彼らにご自分の手と足にくぎあとをお示しになり、彼らの前で食べたとき、彼らは信じてなぐさめられました。信仰と喜びが今、不信にとって代わり、言葉では表現できない気持ちで、彼らは自分たちのよみがえられた救い主を認めました。

この集まりの時に、トマスは彼らと一緒にいませんでした。彼は復活についての報告を信じることを拒んでいました。しかし8日後にトマスがそこにいたときにイエスさまは弟子たちに姿を現されました。

この時に、このお方は再びご自分の手と足にある十字架の傷あとをお示しになりました。トマスはすぐに確信して、叫びました。「わが主よ、わが神よ」(ヨハネ 20:28)

二階座敷において、キリストはご自身に関する聖書を再び説明なさいま した。

それからこのお方は弟子たちに罪の悔い改めと許しはエルサレムをはじめとするすべての国々の間でご自分の名によって宣べ伝えられるべきであると語られました。

天へ昇天される前に、このお方は彼らに言われました。「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(使徒行伝 1:8,マタイ 28:20)。

あなたがたはわたしが世のために送った自己犠牲の生活を目に見たと、この方は言われました。わたしのもとにきて罪を告白する者をみなわたしが受け入れることをあなたがたは見てきた。望む者はだれでも神とやわらぎ、永遠の命を受けるのである。

わたしの弟子たちよ、あなたがたにわたしはこのあわれみのメッセージを ゆだねる。それはすべての国民、国語、民族に与えられるのである。すべ ての国民のところへ行きなさい、人の住む限りどんな地球の果てまで行っ ても、わたしがそこにいることを知りなさい。弟子たちへの救い主の任務 には時の終わりまですべての信者がふくまれていました。

すべての人が会衆に説教ができるわけではありません。しかしすべての 人が個人的に働くことができます。苦しみを受け、貧しい人々を助け、悲し んでいる人を慰め、罪びとにキリストの許しの愛を伝える働き人、これらは キリストの証人なのです。

里芋だんごのあんかけ

■材料

(だんご)

里芋 400 グラム

タマネギ1個厚揚げ1/2個舞茸1パックにんにく1片顆粒昆布だし少々

塩 少々

(たれあん)

水溶き片栗粉 水小さじ2+片栗粉小さじ1

きざみねぎ 適量

■作り方

- 1. 里芋はきれいに洗ってゆでます。
- 2. その間に玉ねぎ、舞茸、厚揚げをみじん切りにして炒め、調味料を加えます。
- 3. 里芋がゆだったら、皮をむいてつぶし、マッシュします。
- 4. マッシュできたら、先ほどの具材を混ぜて、食べやすい大きさの平たい団子にします。
- 5. フライパンにごま油をしいて、両面に色がつくまで焼きます。
- 6. 両面に色がついたら、少しお水を入れてフタをし、蒸し焼きにします。
- 7. その間に、大根をすりおろします。
- 8. 団子が焼き終わったら、皿に取り上げます。
- 9. 次に、たれあんを作ります。大根と水溶き片栗粉をのぞいた材料を混ぜておき、フライパンに入れます。
- 10. わきたったら、すり大根を入れて少し火を通します。
- 11. 火が通ったら、火を止めて、水溶き片栗粉を入れます。
- 12. とろみがついたら、里芋だんごにかけて、仕上げにきざみねぎをのせます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムで す。



イエスの物語

第58話

証人(川)

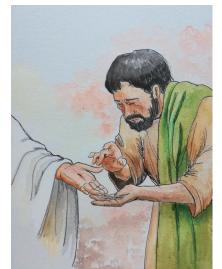
太陽が沈みかけたとき、弟子たちは自分たちの家につきました。イエスさまは「なお先へ進みゆかれるご様子であった」。しかし弟子たちは自分たちにこのような喜びと望みをもたらしてくれたお方から離れることができませんでした。

そこで彼らはこのお方に言いました。「『わたしたちと一緒にお泊まり下さい。もう夕暮になっており、日もはや傾いています』。イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた」(ルカ 24:28, 29)。

簡単な夕食の用意がすぐに整い、キリストはご自分の習慣がそうであったように、食卓の正面に場所を取りました。

通常、食事への祝福を求めるのは家長の義務でした。しかしキリストは パンの上にご自分の手を置いてそれを祝福なさいました。そして弟子たち の目が開かれました。

食事を祝福なさる行為、聞きなれた声の調子、このお方の手にあるくぎあと、すべてがこのお方は自分たちの愛する主であることを明らかにしまし



た。

しばらくの間、彼らは魅了されて座っていましたが、それから彼らは立ち上がってこのお方の足元にひれ伏し、このお方を拝しました。しかしこのお方は突然姿を消してしまいました。

彼らは喜びのうちに自分たちの空腹と疲れを忘れてしまいました。彼らは食事には手もつけないで、よみがえられた救い主の尊いメッセージをもって急いでエルサレムに戻りました。

これらのことを彼らが弟子たち に説明していたとき、キリストご

(43ページに続く)